

京都の景観まちづくりリーダーの原風景と活動動機の関わりに関する考察

新井 謙介¹・山口 敬太²・川崎 雅史³

¹学生会員 京都大学大学院 修士課程 (〒615-8540 京都市西京区京都大学桂C1,
E-mail:arai.kensuke.45m@st.kyoto-u.ac.jp)

²正会員 博士 (工学) 京都大学大学院 准教授 (〒615-8540 京都市西京区京都大学桂C1,
E-mail: yamaguchi.keita.8m@kyoto-u.ac.jp)

³正会員 博士 (工学) 京都大学大学院 教授 (〒615-8540 京都市西京区京都大学桂C1,
E-mail: kawasaki.masashi.7s@kyoto-u.ac.jp)

本研究では、京都市の地域景観づくり協議会で積極的に活動する「景観まちづくりリーダー」を対象としたインタビュー調査を通じて、リーダーらの原風景及び原風景と活動動機・モチベーションとの関係性について考察した。リーダーらの原風景としては町場において近隣住民との交流を伴ったものが多く現れた。また、活動動機・モチベーションへと関わりが深いと考えられる原風景として「地域の愛着につながる体験」、「町/京都一員であることを自覚する体験」、「人付き合いの体験」の3つを確認した。まちづくりの担い手を育てるためには、祭りなどの地域行事や遊び、挨拶といった近隣住民らとの多世代交流を体験できる場を生み出すことが重要である可能性が浮かび上がった。

キーワード: 景観まちづくり, コミュニティ・デザイン, 京都, 地域景観づくり協議会

1. 序論

(1) 研究の背景と目的

現在、全国各地の地域において、住民主体の景観まちづくり活動が活発化している。京都市の地域景観づくり協議会のように、住民が景観施策の直接の担い手となる仕組みも整えられつつある。住民主体のまちづくりが長期にわたって持続するためには、積極的・主体的に活動を引っ張る市民の育成が重要となる。では、ボランティア精神に基づく景観まちづくり活動に積極的、主体的に関わる市民の活動の原動力、その動機やモチベーションはどこから生じているのか。その解明は十分進んでいない。筆者らは、原風景とまちづくりの活動動機には何らかの関係があるのではないかとこの仮説を得た。たとえば、原風景には、「造形力の源泉」(奥野¹⁾、「能動的力を内包し外に働きかける力」(関根²⁾)を生み出す力があり、生活空間の創造の原動力となるとの指摘がある。

そこで、本研究では、景観まちづくりの歴史が長い京都で活動する市民を対象に、地域の景観を守るために積極的・主体的に景観まちづくり活動を行っている市民を「景観まちづくりリーダー」として、インタビュー調査に基づき、その原風景と活動動機の関わりを考察し、景観まちづくりを進める上での知見を得ることを目的とする。

(2) 研究の位置付け

本研究に関する既往研究としては、個人の原風景の構造に関する研究³⁾、個人的原風景が観光地選考に及ぼす影響についての研究⁴⁾、原風景に関する語りを行った際に現れる原風景の内容や叙述様式の構造化を行い、原風景語ることの心理的機能を明らかにした研究⁵⁾などがある。原風景は、環境に対する価値基準となる得ること、人間の価値観を形成する要因の一つとなり得ることが指摘されている。また、地域愛着と活動動機との関係性については、地域愛着が高い人ほど、町内会活動やまちづくり活動などの地域への活動に熱心であるということ、そしてこうした地域愛着は居住年数が高いほど高くなる傾向が示されている⁶⁾。一方、まちづくりリーダーの発達要因とその構造に関する研究⁷⁾にも蓄積がある。

しかしながら、景観まちづくり活動の活動動機やモチベーションと原風景の関わりに関する知見は十分ではない。そこで本研究では「景観まちづくりリーダー」へのインタビュー調査を通じて、具体的な原風景や、景観やまちづくりに関する個人の考えや価値観、動機とその関わりを考察するものである。これは今後の研究を進めるための仮説構築の基礎的な契機としたいと考えてのことである。また、予備的考察の段階ではあるが、成果をそのまま示すことにも一定の意義があるものと考えた。

(3) 研究の構成

研究の構成は、最初に本研究の手法や研究の枠組みを示した(2章)。次に、インタビューの結果をそれぞれの対象者、項目ごとに示し、原風景に関する考察を行った(3章)。その上で、景観まちづくりリーダーの原風景が彼らの活動動機にどう影響しているのかに関して考察を行った(4章)。5章はまとめである。

2. 研究の手法

(1) 研究の対象

本研究では、景観まちづくりリーダーの選定にあたり、京都市の地域景観づくり協議会制度における地域景観づくり協議会の主要メンバーに着目した。現在も昔ながらのコミュニティが残存すると考えられる地域の協議会のうち、ヒアリング許可を得た4つの協議会から、積極的に活動している幹事たち合計10名を「景観まちづくりリーダー」として選定し、インタビュー調査の対象とした。本研究においてはこの4つの協議会を(ア)～(エ)協議会とし、対象者10名をA氏～J氏として表す。これらのヒアリングは平成30年11月から平成31年1月にかけて行った。

本研究においては、呉(2000)⁵⁾の研究の「原風景」の定義を参考に、「原風景」を「過去の体験ではあるが心に強く残っており、たびたび思い起こされ、現在と未来の自分の価値観や周りの環境に影響を与える風景・体験」とする。分析においては、静的な風景イメージだけでなく行為などの動的な体験も含めることを考慮した。

(2) ヒアリングの手法と質問内容

インタビュー調査は協議会ごとに行った。上記のインタビュー対象者に対して、その属性(年齢、職業、居住歴等)を確認後、以下の順で質問を行い、回答を得た。

- (1) 今まで過ごしてきた中で、今でも印象強く残っている風景・体験はどのようなものですか、
- (2) あなたが思うこの地域にとって大切にすべき・残すべきものはどのようなものですか、
- (3) あなたがこの地域の景観を守ろうとする動機やモチベーションとなっているものはどのようなものですか。

これらの質問に対する回答から対象者の「原風景」、 「活動の動機・モチベーション」を抽出し、その関係性を考察した。また、質問(2)からは、対象者が考える「地域で大切にすべき・残すべきもの」が抽出できた。これらが「活動動機・モチベーション」の対象になりうるかどうかについては、質問の中で確認した。

3. 原風景に関する考察

インタビュー調査で得られた、京都の景観まちづくり

リーダー10名の「原風景」、 「地域で大切にすべき・残すべきもの」、 「活動動機・モチベーション」を項目別に整理して表したものが表-1である。それぞれの質問からこれらの項目を抽出する際、明らかに該当する質問の回答となっていないとみられるものは対象項目として除外した。さらに質問に対する回答の中で話の内容が広がったり転じたりした結果、異なる質問に対するその人の回答となっている場合は、内容としては後者の質問内容に該当する対象者の考え方を述べているため、後者の質問に対する回答として扱った。

(1) 空間、行為・活動、近隣住民との交流

インタビュー調査により合計30の「原風景」を抽出した。これらについて、どこで、誰と、何をした原風景なのかを整理した。その際、空間、行為・活動、町内での交流という大きく3つの観点から分類した(表-2)。2つを除けば、残り28全てが京都において体験されたものである。

a) 空間

空間による分類では、町の通り、町並みといった町場、または山、川、疏水といった自然が存在する空間、寺社仏閣という3種の空間を確認した。1つ例外として家の中で体験されたものがみられた。

b) 行為・活動

行為・活動による分類では、遊び、挨拶などの日常交流、地藏盆などの地域行事、風景を見た思い出といった4つの主な体験を確認した。

c) 近隣住民との交流

近隣住民との交流の有無から確認すると、30のうち、19の原風景で、近隣住民との交流を伴っていた。近隣住民の例としては、遊びにおける友達や先輩であったり、地域行事や挨拶で出会う地域の大人たちといった人々が挙げられる。

(2) 原風景に関する考察

得られた30の原風景データをみると、特に町場におけるものが多く現れた。また近隣住民との交流を伴ったものが多く現れた。

ここでこの近隣住民との交流を伴った原風景がどのようにして生まれるかについて検討する。近隣住民との交流を伴った原風景には祭りや地域行事、町内活動といった非日常的なハレの場と、挨拶や子供同士の遊び、買い物といった日常的なケの場それぞれで体験されたものが現れた。

近隣住民との交流について、たとえば日常的な体験であるA氏の「呉服屋の兄ちゃんが声をかけてくれた」という状況が成り立つには「知り合いになっている」や「その地域の道端で偶然よく会う」といった条件が必要

表-1 インタビュー調査結果

	原風景	地域で大切にすべき、残すべきもの	活動機・モチベーション	備考	備考	原風景	地域で大切にすべき、残すべきもの	活動機・モチベーション	備考
A	<ul style="list-style-type: none"> 家族での暮らし 呉服屋の見やんに声をかけてもらった 近代建築や通りで遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 人と人のつながり 近代建築 	<ul style="list-style-type: none"> 生まれ育ったこのまちのずっと見てきた風景が変わってほしくない 建物が無くなってほしくない ずっと住んで商売させてもらっているまちが好きなから魅力あるまちであり続けたい 	<p>50代前半 生まれてから現在まで(ア)地域にて工芸品店を営み、同場所に居住している。事務局長。</p>	F	<p>引越してきた時にみんなが受け入れてくれた。古い家が多く独特の風情を持つ町並みが静かで綺麗で良いと思っ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他所とは違う上品な町並み 骨董店が立ち並ぶから来る上品な客 静かな雰囲気 	<ul style="list-style-type: none"> 他とは違う綺麗で静かな通りの環境を愛したくない 	<p>70代前半 (イ)地域の隣で生まれ育ち、20代~40代の頃に上賀茂地区に居住したのち、(イ)地域に引っ越し現在に至る。</p>
B	<ul style="list-style-type: none"> 雨が降っている時の嵐山の山、川、霧 おじいちゃんに連れられた京都のまちの思い出 	<ul style="list-style-type: none"> 京都の地域それぞれの良さ 近代建築 魅力あるまちであること 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の頃の京都が良かった思い出がありそれを残したい 土木教師として勉強になるのでは このまちに住んでいる 	<p>50代後半 嵐山で生まれ幼少期を過ごす。大阪での居住歴がありその後(ア)地域に引っ越してきて現在まで居住している。現在は高校教諭を勤める。会長。</p>	G	<p>このまちで商売するうちに親切丁寧に人とのつながりが大切になるといいう京都の商人としての在り方を学んで人付き合いが好きな人を知り合いたい。みんなも知り合いたい。なれて挨拶できるまちが良いと思っ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昔から残る和風建築 京都らしい静かな雰囲気 俗界と離れた京都の良さ・文化 	<ul style="list-style-type: none"> 大阪のような俗界に京都はなまってほしくない 京都らしい静かな雰囲気が欲しい 精神面まで腐敗しない都にしたい みんな一生懸命やっけて親切でええ町だし、自分もできる限りのことほしくはない 	<p>80代前半 東京都で生まれ、奈良へ引っ越し高校中退後京都で茶道具商の旨習いとなる。結婚後(イ)地域の隣町にて古美術店を開き50年になる。(イ)地域にも40年居住している。</p>
C	<ul style="list-style-type: none"> 岩国の山や川 夏は川に行く とぶさらいなどの町内活動 	<ul style="list-style-type: none"> 人とのつながり 歴史的な建築物 	<ul style="list-style-type: none"> 人と会う、話すのが好き 自分あまりがやがやできなかった地域行事を子供にやらせたい 京都の山川が岩国と重なって好き 商売させてもらって家より長くいる場所だし自分にもなにかできるのでは 	<p>30代後半 山口県岩国市で生まれ幼少期を過ごし大学入学を機に京都へ引っ越し。現在は上京区に居住し、(ア)地域にある飲食店社員として勤める。</p>	H	<p>羨まない寺の風景、近くの山に登ったり、寺の中で遊んだ</p> <ul style="list-style-type: none"> 山から見た景色 車通りのほとんどない静かな風景 ニシザワさんのお店で買い物をした 天皇陵で毎日のように犬の散歩をして、蛇を見て怖かった 	<ul style="list-style-type: none"> (ウ)地域の寺周辺の風情と静けさの保存 そこに住む人たちの生活が始まる落ち着いた空気感、雰囲気 この地域で生活、事業するのに似つかわしい生活、事業をする 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生まれ育ったこのまちが世界遺産にも登録されているお寺がある京都らしい地域であるということに運命を感じ、責任をもって後世に伝えていきたい 人と人の交流が豊かなコミュニティに近づきたい 二テイにつながらず、自分の住む場所も豊かでありたい 先祖や後世に対する想い 	<p>50代後半 (ウ)地域で生まれ小学校卒業まで過ごしたのち、東京の中学校、そしてアメリカの高校へ進学する。大学は東京の大学へ進学し、現在は京都の会社に勤めながら、(ウ)地域に居住している。理事長。</p>
D	<ul style="list-style-type: none"> 空襲の爆撃機が来たが、落ちてきたピラに『京都は攻めない』と書かれていた その時一緒にいた町内の人と喜んだ 地藏盆になると町内のみんなが集まってくる絆、ソーシャルキャピタル 	<ul style="list-style-type: none"> 芸能文化、骨董文化、落ち着いた町並みが見えたらいい『上品さ』 昔から変わらない雰囲気 昔からある絆、人間味 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史あるこのまちは先人達がつないできたままでも文化も雰囲気も今より下げたくない 生まれ育ったこのまちの雰囲気や文化が大好きでこれからの世代へ保全継承したい 景観や雰囲気を守ることによってこの地域の価値が上がる 	<p>70代後半 生まれてから現在まで(イ)地域の現在の家に居住。京都のバス会社に勤め、現在は退職。事務局長。</p>	I	<p>御前通の前で4のつく日</p> <ul style="list-style-type: none"> 露店・夜店で楽しんだ 下町にあった地藏盆などの地域交流 大学時代に(ウ)地域の近くをバイクで散策するのが楽しく、将来はここに住みたいと思っ 	<ul style="list-style-type: none"> 寺の門から眺める山の風景 世界遺産の周辺地域にふさわしい光景 昔ながらの景観、風情、迫力、厳かさ 他の観光地と違う静かであつたりと広々とした雰囲気 	<ul style="list-style-type: none"> 引越してきたタイミングで景観問題にぶつかり縁を感じた この景観を次世代に守っていかなくてはならない 町内で生まれるコミュニケーションが有事の際にも大切 守ることにしてお金で買えない副産物として大きく得るものがある 	<p>60代前半 京都の二条駅の近くで生まれ育ち、大学時代を衣笠の近くで過ごす。その後宇治、中京区などに引っ越し約10年ほど前から(ウ)地域に居住し現在に至る。副理事長。</p>
E	<ul style="list-style-type: none"> 先輩たちに近くの公園に連れて行ってもらう遊びでもらった タートルソールをこころや基地作り、ソフトボールをした 先輩たちと疏水で泳いで遊んだ 青年会の先輩が芝居やスライドをしてくれた 地藏盆 	<ul style="list-style-type: none"> 着いた色によってもたらされる良い雰囲気 先輩達が力を合わせて残してきた地藏盆の文化 	<ul style="list-style-type: none"> 昔から先人達がつないできたものを、自分も継承してこのまちに残したい 通りの角を曲がった時に見える(イ)地域の町並みが好き 長年ここで商売しているし 	<p>70代後半 (イ)地域で生まれ過ごし、40代ごろから山科に居住し現在に至る。現在は(イ)地域で真金細工店を営む。</p>	J	<p>京町屋が並ぶごく普通の町並み</p> <ul style="list-style-type: none"> 西本願寺の堀で泳いだり、境内で走り回った 	<ul style="list-style-type: none"> 橋と山の急斜面が織りなす独特の風景 周りの環境・町並み 住む人の営みが感じみ出て生み出す雰囲気 	<ul style="list-style-type: none"> 引き継がれてきたものを理由なく引き継ぎたいという想い そこに人が住んで高みがないみ出て境界が形成されていくべき 	<p>60代前半 京都の西本願寺の近くで生まれ育ち、結婚とともに(ウ)地域あたりへ引っ越し、現在は(エ)地域にて兼務局長を勤める。</p>

となる。非日常的体験であるD氏の「地藏盆になるとみんなが集まってくる」という状況が成り立つには「地域の人々が地藏盆に関わっている」や「近隣住民たちの協力意識、参加意識がある」といった条件が必要となってくる。これらのハレとケどちらの状況においても地域のつながりや参加意識といった「地域コミュニティ」の存在が基盤となって生まれている。また、地域行事のようなハレの場の存在により、日常的なケの場での挨拶や遊びが生まれていることが考えられる。

個別で体験された原風景からは、E氏、H氏、J氏のように、山・川といった自然環境や町場、寺社仏閣といった空間の体験がいくつかみられた。これは京都の自然環境、町場、寺社仏閣が近接して存在するという京都の空間特性が与える影響は少なくないと考えられる。

4. 原風景とまちづくり活動動機との関わり

(1) 活動動機・モチベーションの類型

インタビュー調査からは、景観まちづくりリーダーの「活動動機・モチベーション」として、大きく4つのパターンを確認した。すなわち、1)ずっと住んできたから、このまちが変わってほしくない（愛着ある町の持続）、2)地域で受け継がれてきたものや先人の想いを感じて、自分も受け継ぎたい（まちづくり精神の継承）、3)京都という場所にいる運命性や、京都の神秘性を感じて、これを守らなければならない（京都らしさの保全）、4)人付き合いが好き、仕事の関係上（人づきあいの魅力）、の4パターンである。

(2) 活動動機・モチベーションへの影響関係

活動動機・モチベーションの種類からそれぞれの具体例を整理する。

a) 愛着ある町の持続

この活動動機を持っている対象者としてA氏、F氏が挙げられる。例として、A氏の主な活動動機としては「ずっと見てきた風景が変わってほしくない」、「ずっとこ

表-2 原風景（空間・行為・活動・近隣住民との交流）

原風景	空間要素	行為・活動	近隣住民との交流	地域コミュニティ基盤
A 通りの前でローラースケートやバドミントン	町の通り	遊び		
通学路で呉服屋の兄ちゃんが声をかけてくれる	町の通り	日常交流	呉服屋の兄ちゃん	○
おばあちゃんとかと家で過ごす生活	家の中	日常生活		
近代建築で遊ぶ	町の通り、近代建築	遊び	友達	○
B 雨が降っている嵐山の山と川の風景	山、川			
おじいちゃんに連れられた京都のまち	町並み			
C 岩国の山・川	山・川			
どぶさらいなどの町内活動	町の中	町内活動	近隣住民	○
D 地藏盆	町の通り	地域行事	近隣住民	○
B 29から落ちてきたピラを見て遊ぶ	町の通り		近隣住民	△
E 近くの公園に先輩に連れてってもらってターザンごっこや基地づくり	公園、木、草むら	遊び	町内の先輩	○
疏水で泳ぐ	疏水	遊び	町内の先輩	○
青年会のスライドや芝居	町	地域行事	町内の先輩	○
地藏盆	町の通り	地域行事	近隣住民	○
F 地藏盆	町の通り	地域行事	近隣住民	○
古い家が立ち並ぶ独特の風景	町並み			
引っ越してきた時に受け入れてくれた	町	日常交流	友達	○
G 京都で丁稚奉公するうちに、京都の商人のあり方を学ぶ	商店	日常交流	近隣住民、買い物客	○
みんな挨拶出来て仲良くなれる	町	日常交流	近隣住民	○
H (ウ)地域の寺の中で遊ぶ	寺	遊び	友達、住職	○
(ウ)地域近くの山に登って遊ぶ	山	遊び	友達	○
(ウ)地域近くの山から見た景色	山			
ニシザワさんで買い物	商店	日常交流	近隣住民、ニシザワさん	○
天皇陵で犬の散歩、蛇を見る	天皇陵			
(ウ)地域周辺の静かな風景	寺			
I 御前通で4のつく日の露店・夜店	町の通り	地域行事	近隣住民、友達	○
地藏盆・地域行事	町の通り	地域行事	近隣住民	○
大学の近くのきぬかけの路をバイクで散策	自然の中の道			
J 京町屋が立ち並ぶごく普通の町並み	町並み			
西本願寺の堀で泳ぐ	堀、水	遊び	友達	○
西本願寺の境内で走り回る	寺	遊び	友達	○

の町に住んできたから」が現れた。同様にB氏に関して「ずっと」(ア)地域に居住しているわけではないものの、「住んでいる町やし」といった活動動機を持ち合わせていた。このように「ずっと過ごし、見てきた町が変わってほしくない」という想いが活動動機となっている例が確認された。

b) まちづくり精神の継承

この活動動機を持つ対象者としてD氏,E氏,H氏,J氏が挙げられる。例として、E氏の主な活動動機としては「先輩たちがつないできた想いを感じて、なんとか自分もつなぎたい」が現れた。このようにその地域で先人たちがつないできた歴史や文化、雰囲気を受け継いでいきたいという活動動機が確認された。一方でJ氏に関しては「引き継がれてきたものを理由なく受け継ぎたい」という、(エ)地域の先人への想いというよりは、J氏個人元来の価値観や考えが活動動機となっている。

またE氏に関しては、活動の中で、過去の地藏盆の資料を見た時に、改めて地域の先人たちが地藏盆を残してきた想いを感じて、さらに活動動機やモチベーションを強くさせている関係性もみられた。

c) 京都らしさの保全

この活動動機を持つ対象者としてG氏,H氏,I氏が挙げられる。例として、H氏の主な活動動機としては「自分が京都のこのまちに生まれたことに運命を感じて責任を感じる」、「先祖や後世への想い」といった活動動機が

現れた。

G氏, H氏のようにこうした京都全体を価値として捉える活動動機や想いをもっている対象者の共通点としては、過去に京都の外において過ごしてきた経験をもっているという点がある。G氏は幼少期東京で過ごし、Hは中高時代をそれぞれ東京, アメリカで過ごしている。Hにおいてはヒアリングの中でも、「日本も離れてたんで、逆に日本の良さとか、故郷の良さとかを逆に考える。より故郷として京都のことを考える。…逆に私はずっと離れて、京都のことや日本のアイデンティティについて常に考えてきたんで、今こうゆう立場でふるさとのお役に立てるのであれば積極的にかかわっていききたいという想いはありますね」と発言している。G氏においても「京都という天皇陛下がおられた特別な場所を俗界にはいけない」という考えは、この関係について直接言及していないものの、元々は東京の人間であるがゆえの外部の視点を持っているからこそ生じているのではないかと思われた。

これらのことから、京都の外での居住経験によって、生まれてからずっと京都で過ごしてきた他の対象者とは異なる、比較対象が明確な相対的な京都を捉えているからこそ、京都や故郷への特異な想いが生まれるのではないかと考察された。

d) 人づきあいの魅力

この活動動機を持つ対象者としてB氏,C氏が挙げられ

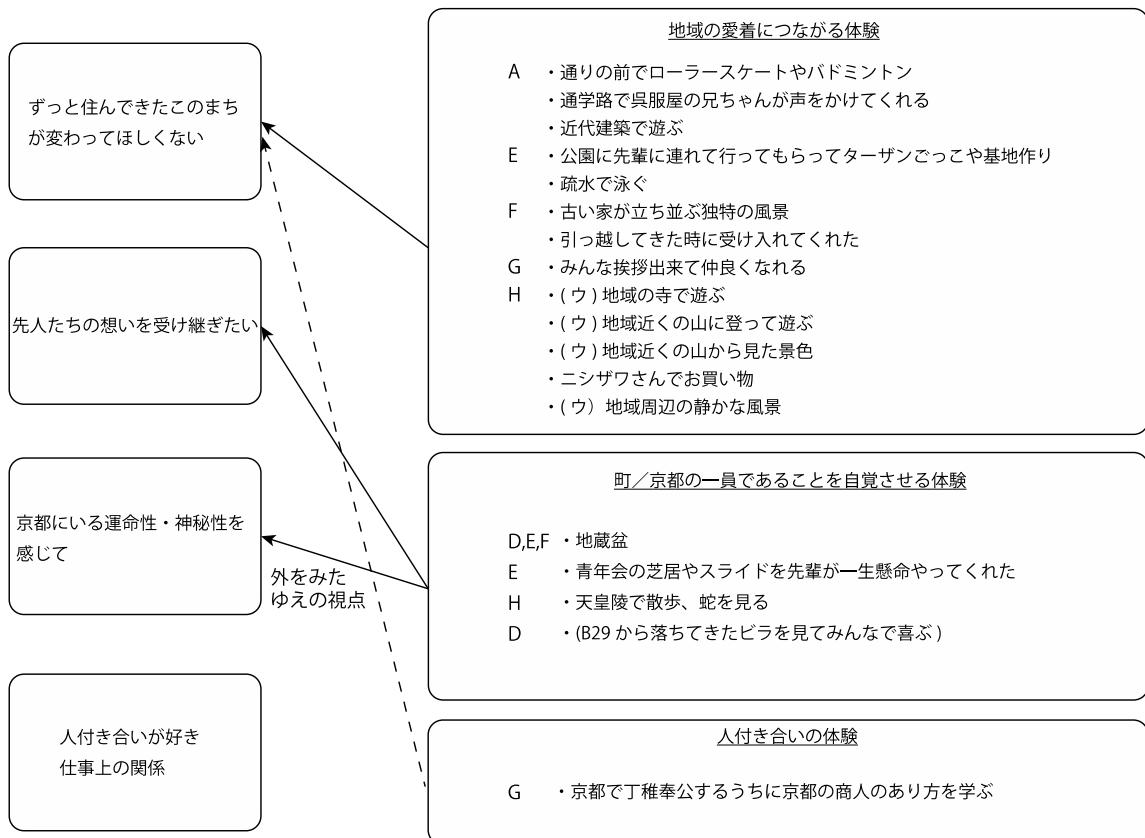


図-1 原風景と活動動機の関わり

る。例として、Cの主な活動動機としては「人と会うのが好き」, 「界隈の雰囲気良くないと商売にも良くない」が現れた。このように「人付き合いが好き」といった性格や仕事上の関係といったものからくる活動動機も確認された。

(3) 活動動機に影響を与える原風景

インタビュー調査に基づき、原風景と活動動機・モチベーションの関わりを表したものが図-1である。また、原風景と活動動機の関わりが確認できた6名の対象者の時間軸に沿った関係性について表したものが図-2 (前頁) である。考察の結果、以下の3つの体験において、これらの関わりを把握することが出来た。

a) 地域の愛着につながる体験

インタビュー調査の結果、地域の愛着につながる体験と、活動動機の関わりを確認した。たとえばA氏の「家の前で遊んだ」や「呉服屋の兄ちゃんに声をかけてもらった」などの愛着につながる原風景をもつ人は、愛着ある町の持続という活動動機をもつ可能性が示唆された。これを直接確認したのはA氏、F氏のみであるが、D氏、E氏、H氏もこうした体験を原風景として挙げており、彼らもまた地域愛着が活動動機に影響している可能性もある。

b) 町/京都の一員であることを自覚させる体験

同じく、町/京都の一員であることを自覚させる体験

と、活動動機の関わりを確認した。D氏、E氏の「地蔵盆」やE氏の「青年会の芝居やスライド」などがこれにあたる。このような地域行事や町内活動によって、自分がその地域にいる、または地域の一員であるということが強く認識されている。また、この強い自覚を通じて、先人たちがその地域のために貢献してきたこと、地域活動を継承してきたことなど、地域の歴史や伝統への意識と、「先人たちの想いを受け継ぎたい」という活動動機やモチベーションが生じていると考えられる。とりわけ、地蔵盆や祭といった地域行事、いわゆるハレ的な場における交流の体験が多く現れることが確認できた。

また、H氏の発言からは、町における日常的な遊びや買い物といった原風景の存在と、京都や町の一員であったことの自覚に関わりがあることが示唆された。

c) 人付き合いの体験

人付き合いの体験の重要性も確認できた。G氏の「京都で丁稚奉公するうちに、京都の商人のあり方を学ぶ」ことができ、これにより幼少期に東京で暮らしていた頃、自分勝手に人付き合いが嫌いだったG氏であるが、真逆の人付き合いが好きな人間に変わった。この価値観の転換があったからこそ、G氏は「ええ町やな」と感じた町のために活動しようとする想いが生まれたという。

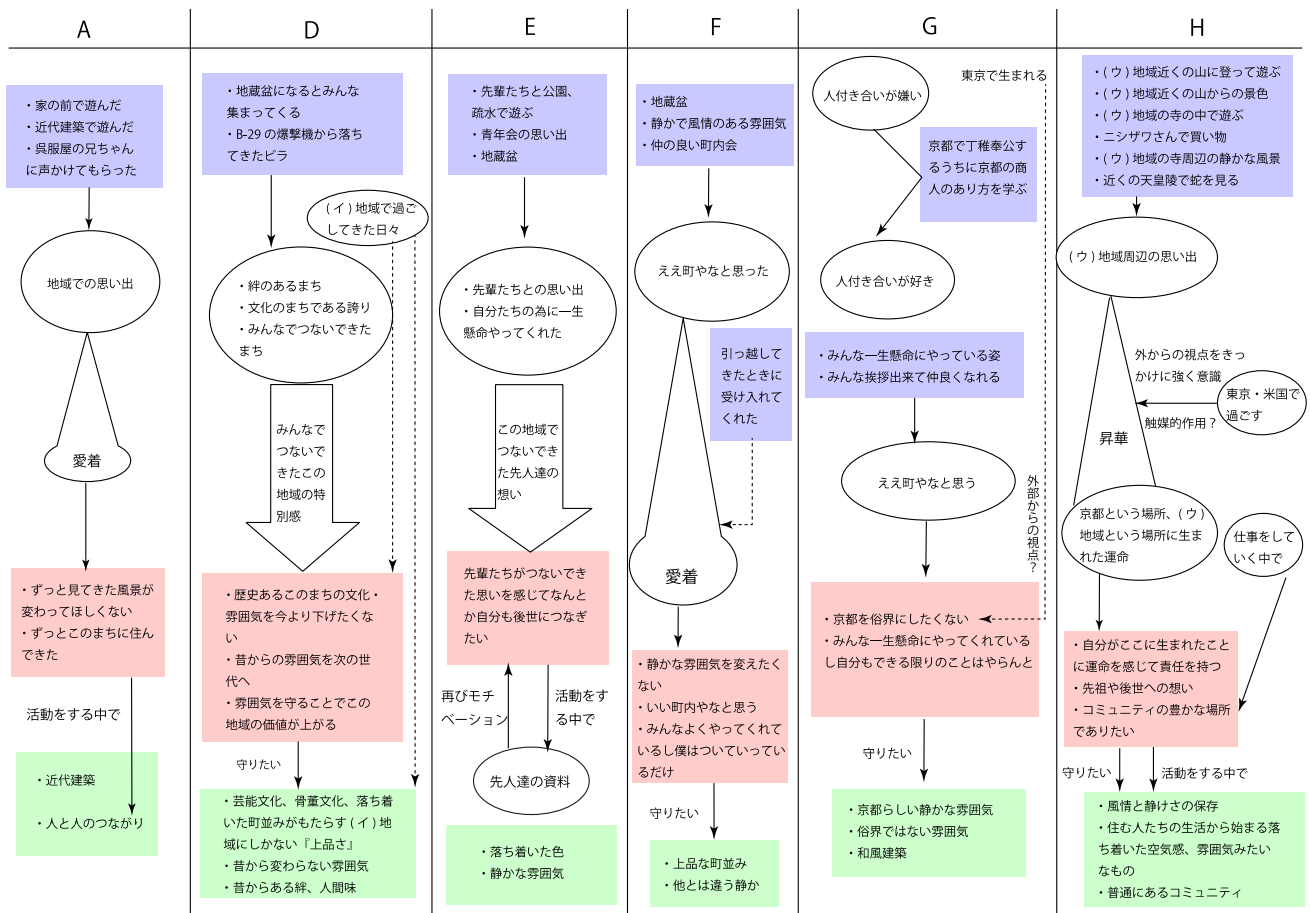


図-2 景観まちづくりリーダーの原風景と活動動機の関わり (一部)

(4) 地域で大切にすべき・残すべきものとの関係

原風景と「地域で大切にすべき・残すべきもの」との関係についていえば、本研究のインタビュー調査の範囲においては、明確なつながりが見えるものは少なかった。

一方で、原風景とは関係のない部分でみられた傾向としては、まちづくり活動を行うなかで「地域で大切にすべき・残すべきもの」を見出していった対象者の発言がいくつか確認できた。A氏、B氏、H氏、I氏などは活動をする中で、固有の地域資源はもちろんだが、活動の性質上、地域の人々の協力は不可欠であり、その点で地域の人々のつながりというもの重要であり、それこそが残すべき地域資産であるという趣旨の発言を確認した。

一方、10人のインタビュー対象者のうち、B氏、C氏だけでなくI氏、J氏に関しても原風景と活動動機・モチベーションとの明確な関わりはみられなかった。I氏、J氏は原風景として挙げられたものとは別の体験や出来事が活動動機・モチベーションに影響していたことを確認した。

5. 結論

本研究では、京都市の地域景観づくり協議会で積極的・主体的に活動する「景観まちづくりリーダー」へのインタビュー調査を通じて、原風景と景観まちづくり活動の活動動機の関わりについて考察した。得られた成果は以下の通りである。

- 1) 「景観まちづくりリーダー」の原風景としては町場を中心とした空間における、近隣住民との交流を伴ったものが多く現れた。町の日常・非日常の双方において、近隣住民同士の交流を生み出す地域コミュニティが原風景の基盤として重要な影響をもちえることを示した。
- 2) 景観まちづくりリーダーの活動動機として、愛着ある町の持続、まちづくり精神の継承、京都らしさの保全、人づきあいの魅力を確認した。さらに、活動動機へと影響を与える原風景としては「地域の愛着につながる体験」、「町/京都の一員であることを自覚させる体験」、「人付き合いの体験」が重要である可能性を示した。町/京都の一員であることを自覚させる体験としては祇園祭や地蔵盆といったハレの地域行事がなりやすく、この体験が「先人たちの想いを受け継ぎたい」というまちづくり精神の継承という活動動機へと影響しやすい関係性が確認できた。「地域の愛着につながる体験」としては挨拶や遊びといった日常生活における交流が重要であり、こうした体験が積み重なることで町への愛着へとつながり、この愛着が「ずっとみてきたこのまちが変わってほしくない」という愛着ある町の持続に関わる活動動機に

影響する可能性を示した。

以上、得られた原風景として考えられる3つの体験は、コミュニティの地域属性とアイデンティティをより強め、活動動機の源泉として関わっている可能性を一定程度示したものと考えられる。

謝辞：本研究の資料調査において京都市地域景観づくり協議会のヒアリング調査を行った10名の方には多大なご協力を頂いた。厚く謝意を表す。

参考文献

- 1) 奥野健男, 文学における原風景, 原っぱ 洞窟の幻想, 集英社, 1972
- 2) 関根康正, 原風景試論—原風景と生活空間の創造に関する一考察, 季刊人類学, 13-1: p164-191, 1982
- 3) 吉村晶子, 原風景の生成に関する研究, ランドスケープ研究 67(5), 731-736, 2004
- 4) 八城薫, 小口孝司, 観光地選好に及ぼす個人的原風景と心理学的個人差, 観光研究, 15-1, 27-33, 2003
- 5) 呉宣兒, 語りからみる原風景—心理学からのアプローチ, 萌文社, 2001
- 6) 鈴木春菜, 藤井聡, 地域愛着が地域への協力的行動に及ぼす影響に関する研究, 土木計画学研究・論文集, 25, 357-362, 2008
- 7) 井手拓郎, まちづくりリーダーの発達影響要因とその構造に関する分析, 日本建築学会計画系論文集, 83-753, 2239-2248, 2018